能登地震

水道の早期復旧必要

輪島中で救護所開設 AMDA活動報告

能登半島地震の被災地で支援活動を続けている国際医療ボランティアAMDA（岡山市北区伊福町）の佐藤拓史理事長(59)らが29日、同市内で記者会見を開いた。避難所では断水が感染症流行の要因になっているとして、水道の早急な復旧が必要と訴えた。（1面関連）

佐藤理事長は医師として8～18日、約500人が身を寄せた輪島中（石川県）の避難所内に設置した救護所で、連日50～60人の傷病者を診察した。新型コロナウイルス、ノロウイルスといった感染症ごとに部屋を用意して隔離。「感染症の拡大は断水によって手洗いができず、トイレも流せなかったことが大きな要因」と指摘した。

今後の支援については「必要とされる内容は日々変わる。避難者の要望を丁寧に聞き、整体や鍼灸（しんきゅう）といった支援も届けたい」と述べた。

調整員の大西彰さん(56)は、運動機能の保持やストレス解消のため、高齢者でも簡単にできる体操を提案したと紹介した。

AMDAは地震発生翌日の2日から医師、看護師、理学療法士、調整員の計38人を順次派遣。現在は10人が活動している。（三川創）

輪島中に設置した救護所で診察する佐藤理事長（AMDA提供）